

島根県意宇郡六十七方村の大庄屋周藤彌兵衛は宝永三年（一七〇六）、日吉村の度々の洪水を防いで村人の難儀を救うため、意宇川の日吉切通しを拡幅しようと決意したが、松江藩の財政難のため、家財を投じ、一人で岩山に向かった。五十六歳で始めた工事が完成した時、彌兵衛は九十二歳であった。

周藤彌兵衛

（交易場修、村尾靖子、小室孝太郎著）

事は十数年同時に進行し、日吉の切通しは一七四七年に一足早く完成した。彌兵衛は工事の途中で僧になり、良利と名乗った。人々の苦難を救う開削工事が、どちらも独力で、僧の手によったことは因縁が深い。

断と担当役人の藩の財政難の中での誠実な推進と、藩に頼ることをあきらめた村の代表の大庄屋と、それぞれの階層のリーダーたちの努力のたまものと言える。そして、最も苦勞した周藤家の跡

人「小室孝太郎著「漫画・治水の英雄伝」である。珍しい企画だ。この三部作によって、児童、生徒、成人の各年齢層が自分の好みの表現で読めるので、読者の範囲が広がるという狙いがある。また、

にスポットを当てて現代に甦（よみがえ）らせ、その足跡をたどることで未来への道筋を発見する「一村一志運動を提唱し、その一つとして「人と水」出版シリーズを企画した。

郷土の偉人描く3部作

本は書店に置かず、直接発行所に申し込むことになっている。
（曾田寛元島根県学
校図書館教育協議会
長）
（HNS研究所）松江
市浜乃木二六一九、宅
和ビル六号、電話085
2・21・8420。小
説一四〇〇円、児童文学
一三〇〇円、漫画一三〇
〇円）

た、比べて読むことで、三人の作者が、彌兵衛と
その時代をどのように書
いているか、違いが分か
って興味深い。
発行所の代表小松昭夫
氏は「郷土の人々の環境
と生活のために生涯を捧
げた偉大な先人

文学・川の流れを変えた
のトップである藩主の決